



いなぎせんえ
稲城選恵(1917~2014)

人間の今生きているということは、あたかも一枚の紙の表だけを見ているようなものです。その裏には「死」ということが密着しており、「生」の外に「死」はなく、「死」の外に「生」はあり得ません。人間の「生」はあたかも風前の灯火の如く、いかに科学が進歩しても次の瞬間も保証されていない存在であります。

ほんとうの宗教とは、この人間であること存在に問いを持つことから始まります。一人この世に出て、ただ一人去っていく。この真実を知れば、今この私の問題となり、じっとはしてられません。

この問題の正しい答えを明らかにしたのが「生死出づべき道」といわれる仏教であります。親鸞聖人が示された浄土真宗のお念仏のみ教えは、とかく誰もが嫌う死の問題に対して、正しく超えて行く“道”そのものであるのです。

わじょう
稲城選恵和上のご法話

真実のみ教えをお示くださった親鸞聖人に感謝し、阿弥陀さまのお救いをあらためて心に深く味わわせていただき、一年で、もっとも大切なご法要が、「報恩講」です。

「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第3代覚如上人が、親鸞聖人の33回忌にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由来しています。

以来、700年を超える歴史の中で、先人たちが親鸞聖人ご命日の法要を「報恩講」として脈々と受け継ぎ、今日まで大切にお勤めしてきました。

家庭での報恩講をお勤めするとともに、ぜひあなたのお手つぎのお寺や本山、別院など全国の浄土真宗のお寺でお勤めされる報恩講に、お参りいたしましょう。

【西本願寺グランドツーリングのご案内】

※全国の別院・教堂等の報恩講日程一覧や、リーフレットのバックナンバー等をダウンロードできます



■報恩講の案内

の報恩講は

月 日 から

月 日 です

皆さまそろってお参りください



「お前も、もう中学生になったんだから、いつまでも人に迷惑をかけておってはいかんよ。いつまでも人に責任を取らせるようなことをしてはいかん。自分の責任くらいは自分で取れよ」

作家の高史明さんが、中学校入学式の日息子さんへかけた言葉です。真面目で純粋な息子さんは、父が贈ってくれた言葉通りに一生懸命生きようとされました。しかし、その後、短い人生に自ら終止符を打たれたのです。

一人息子を喪った高さんはどん底の暗闇に突き落とされます。高さんは自分を責めました。「息子の“いのち”を奪ったのは私の言葉ではないか」と。

そんな暗闇の底から、高さんを救ったのが『歎異抄』との出会いでした。

私たちは、人に迷惑をかけずに生きることはできません。多くの“いのち”のつながりの中で生かされているのです。

高さんは、当時を振り返り、「今の私ならこう言うでしょう。〈人に迷惑をかけておることに気づかせてもらわないかん。人間というのはなかなか自分の責任すら取れないんだよ。だから、自分のできることを、精いっぱい、ひとつでも、世の中のために、みんなに、お返しができたら素晴らしいね〉」と。

私たちは、決して自分一人だけでは生きてはいけません。そして、まったく欠点の無い完璧な人もいません。他の人に迷惑をかけたり、またかけられたりして、支えあって生きているのです。

そんな多くの“いのち”のつながりのなかで、生かされていることに気づくことができた私にこそ、他の人たちと共に、いま自分にできることを精いっぱい努力させていただける人生が開かれていくのです。

親鸞聖人は、1173年5月21日(承安3年4月1日)、京都・日野の里でご誕生、9歳で得度(仏門に入り僧となること)された。比叡山で20年間修行されたが、迷いや苦悩から逃れることができなかった。そこで山を下り、六角堂での救世観音の夢告により法然聖人の門弟となられ、専修念仏に出あわれた。35歳の時、専修念仏停止によって越後に流罪となり、39歳で赦免の後、妻・恵信さまや家族とともに関東へ移り、約20年間布教を行われた。1224年(元仁元年)に主著『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を著された。その後、京都に帰り著述活動を行われ、1263年1月16日(弘長2年11月28日)、90歳でご往生された。

報恩講を機縁に、
親鸞聖人のご生涯と教えに触れる…



『漫画 親鸞さま』
岡橋 徹栄 作
広中 建次 画
A5判/228頁/
本体1,000円+税



『歎異抄(文庫判)』
現代語訳付き
梯 實圓 解説
文庫判/176頁/
本体400円+税

このほかにも、本願寺出版社では、浄土真宗や親鸞聖人に関するたくさんの書籍を用意しております。報恩講の機縁に、ぜひお読みください。

お問い合わせは、本願寺出版社まで

 0120-464-583
FAX 075-341-7753

